

水戸協同病院 総合診療科

病院名・診療科名・研修プログラム名

筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター総合病院水戸協同病院
総合診療科
後期研修内科専攻医プログラム

住所・ホームページアドレス・連絡先メールアドレス

〒310-0015 茨城県水戸市宮町3丁目2-7
<http://www.mitokyodo-hp.jp/>
連絡先メールアドレス：residency@mitokyodo-hp.jp

指導医名・記載者名

内科研修統括者：佐藤浩昭（さとう ひろあき）
総合診療科部長兼プログラムディレクター：小林裕幸（こばやし ひろゆき）
記載者：山口裕之（やまぐち ひろゆき）

研修プログラムの目標としている医師像

「Outstanding standard」、つまり高いレベルでの標準化された医療を提供できる医師を目標としています。

スタッフ人数

総合診療科アテンディング(指導医)：6名（男性5名、女性1名）

レジデント人数

14人（男性13人、女性1人）
その他筑波大学内科及び総合診療科からのローテートあり（5名、男性2名女性3名）

当直

当直：月3回程度
内科直(兼救急車担当)月1回、walk-in直月2回

当直明けの帰宅可。3年目以降の医師が、内科系当直、Walk-in当直、ICU当直（院長代理）を担当します。内科系当直は、内科系救急車と病棟患者の夜間対応を行います。初期研修医は救急車患者の診療を中心に、当直の全業務を担当します。

※休日診療体制について

週末当番者が病棟回診・オンコールを行います。回診業務が終了すれば帰宅可能です。週末当番は、各チームから1名が担当します。

診療科独自の病床数

約150床

勉強会やカンファレンスの開催曜日・時間とその概要

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	1,3土曜日	2,4土曜日 日曜日
			消化器内科 レクチャー	総合診療科 ミニレクチャー	MKSAP 勉強会		
午前	内科合同 朝カンファレンス						救急外来カ ンファレン ス
	内科外来診療 (総合)	グランドカンフ アレンス (総回診)	入院患者診療	入院患者診療	内科・外科 合同 消化器カン ファレンス	入院患者診 療	
午後	入院患者診療 検査など	病院レクチャー	入院患者診療 検査など	抄読会 (感染症)	入院患者診 療 検査など	担当患者の 病態に応じ た診療 / オ ンコール / 日当直 / 講 習会・学会 参加など	担当患者の 病態に応じ た診療 / オ ンコール / 日当直 / 講 習会・学会 参加など
	内科カンファ レンス (循環器内科, 内分泌代謝・ 糖尿病内科)	内科カンファ レンス (腎臓内科)	病院レクチャー CPC など	内科カンファ レンス (神経内科, 膠原病リウマチ 内科)	内科カンファ レンス (呼吸器内 科)		
	担当患者の病態に応じた診療 / オンコール / 当直など						

A. 朝カンファレンス

平日朝8時15分より朝カンファレンスを実施しています。朝カンファレンスでは当直帯の入院患者のプレゼンテーションと担当チームの振り分けを行います。振り分けられ

る症例は、当直帯の緊急入院・予定入院・および前日の日中に入院した患者です。平日のプレゼンテーションは原則シニアが担当します。

担当した症例に関してER担当医がプレゼンテーションを行い、チーフやアテンディングが司会を行い、適宜質疑応答を行います。

B. グランドカンファ

毎週火曜日の9時半から11時に4階講堂でグランドカンファを実施しています。カンファレンスでは症例共有・相談症例を中心に実施し活発な議論を繰り広げています。1月に一度外国人医師を招聘し英語でのカンファレンスも実施しています。

C. その他のカンファレンス

・総合診療科レジデントミーティング

毎週水曜日の朝カンファレンス後、総合診療科レジデントのみでミーティングを行います。内容は研修や病棟管理など多岐にわたります。

・総合診療科ジャーナルクラブ

2ヶ月に1回程度、ジャーナルクラブが開催されます。

・外部講師

毎月国内外の外部講師によるレクチャーや教育回診を行っています。

具体的な研修内容紹介

・入院

あらゆる内科入院患者を総合診療科担当チームが担当し、診療に当たります。2次救急病院ですが、救急患者も総合診療科が多くを対応しており、初療から退院、退院後外来まで継続して患者を受け持つことが出来ます。また、入院患者はチーフレジデントが各チームにほぼランダムに振り分けており、幅広い患者層を同時に対応することができます。チーム制を採用しており、近年医師数も増加傾向のため、業務時間も減少傾向であり、休みも確実に確保できるようになっています。

・外来

内科初診外来、内科再診外来（週1コマずつ）担当となっています。（それぞれ5-15症例）

・教育

総合診療科ではアテンディング（指導医）1名、専攻医1-2名、初期研修医1-2名からなるチーム制を採用しています。指導医・初期研修医と切磋琢磨しながらお互いを高め合うことができます。初期研修医が専攻医とほぼ同数であるため、非常に多くの教育機会があり、教育力をつけることができます。また、朝カンファレンス・グランドカンファレンスを始めとした多彩な教育機会が用意されており、「Outstanding standard」を目指すに相応しい教育体制が整えられています。

研修終了後の主な進路

米国ピッツバーグ大学家庭医療科レジデント、横須賀米軍病院レジデント、Lazzaro Spallanzani National Institute for Infectious Diseases、水戸協同病院総合診療科スタッフ、水戸協同病院内分泌代謝糖尿病内科スタッフ、利根中央病院総合診療科スタッフ、順天堂大学総合診療科スタッフ、筑波大学総合診療グループスタッフ、東京ベイ救急科スタッフ、獨協医大救急集中治療科スタッフ、済生会宇都宮病院神経内科、東京医科大学臨床検査科スタッフ、東京女子医科大学血液内科スタッフ、白河総合アカデミー総合診療科スタッフ、東京大学大学院医学系研究科、順天堂大学大学院、武蔵野赤十字病院救命救急科、島根大学附属病院総合内科、君津中央病院消化器内科、慶応大学スポーツ医学科

その他・自由記載

■ 当院の雰囲気

若手が非常に多く活気があり指導医も気さくで互いに教えあう、科の垣根がない研修をうけられます。日本中から研修医が集まっており、バックグラウンドも非常に多彩です。また、育児と仕事の両立を病院としてサポートしており、男女問わず育休の取得が可能で多くの育休の取得実績があります。

■ プログラム

定員数は3年間のプログラムで8名の定員数です。また新専門医制度のプログラムに入らない方も別途募集しており、3ヵ月から1年の短期研修も可能です。

